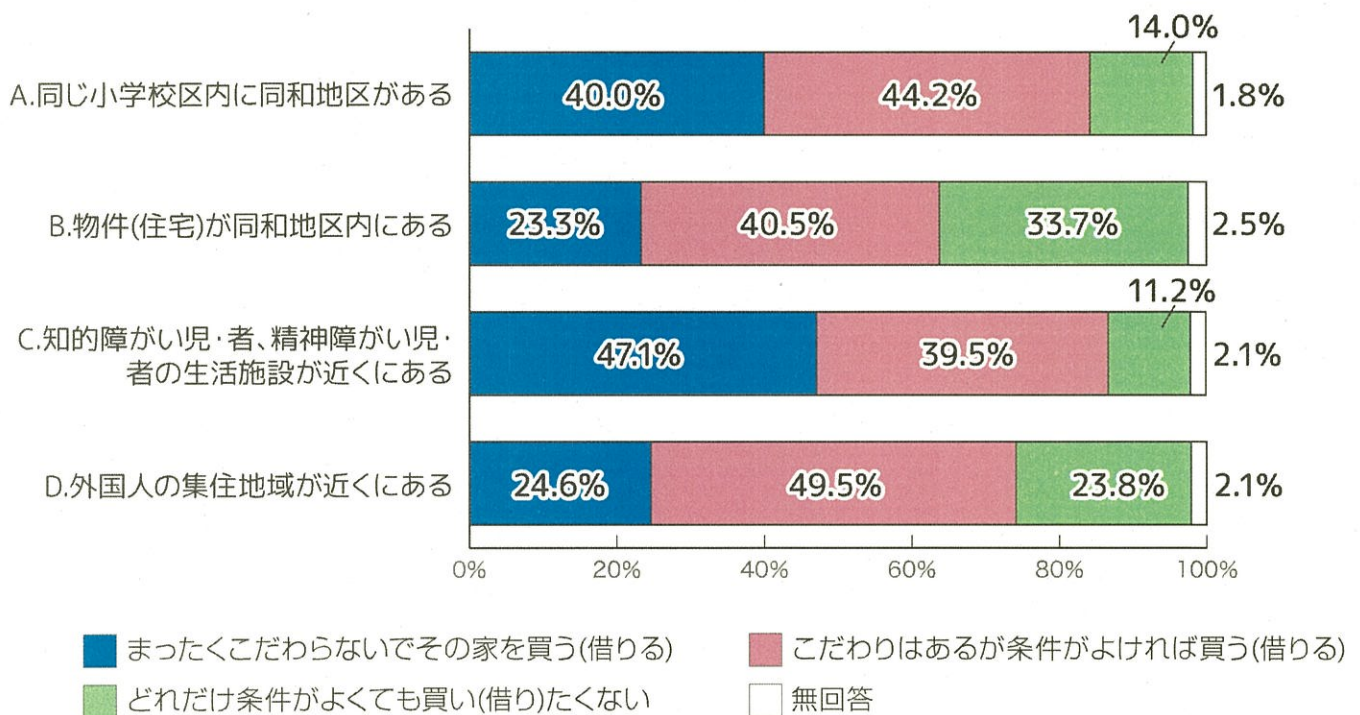


7. 住宅購入に対する意識

もし仮に、あなたが住宅を探しているとした場合に、間取り、交通の便、環境、値段など、自分の目で確かめ、気に入ったとします。その後、その家のすぐ近くにA～Dのような条件があることがわかった場合、どうするかについて聞きました。



住宅を探している場合に、気に入った物件にA～Dの条件があることがわかったときに、県民の半数以上は「まったくこだわらない」「こだわりはあるが条件がよければ」と購入の意向を示しています。

一方で、「どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない」とする人が、A.14.0%、B.33.7%、C.11.2%、D.23.8%となっています。特に、「B.物件(住宅)が同和地区内にある」場合、その物件(住宅)を避けるという県民が3割を超えており、同和地区内の土地や不動産に対する忌避意識はなお強く存在していると言えます。

同和地区に対する忌避的態度について、報告書の「第2部 研究編」に掲載されている部分を、次のパネルで一部紹介します。